

感染症定期報告感染症別文献一覧表

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	B型肝炎・C型肝炎	Gastroenterology doi:10.1053/j.gastro.2010.03.053 2010 March 27	内視鏡検査のため、同じ麻酔医から麻酔を受けた患者間における急性HBV(hepatitis B virus)およびHCV(hepatitis C virus)感染のアウトブレイクについて調査を行った。6例のHCV感染および6例のHBV感染に関連したアウトブレイクがクリニック1で検出され、クリニック2では1例のHCV感染が確認され、患者からのHCVのquasispecies配列は、慢性ウイルス肝炎患者由来とほぼ一致した。全患者はいずれかのクリニックにて麻酔医1からプロポフォール投与を受けており、この麻酔医1はプロポフォール単回用バイアルを複数の患者に使用し、再投与のためシリンジが再利用された結果、汚染された薬液バイアルが患者に使用され、ウイルス感染を招いた。
2	E型肝炎	Journal of Gastroenterology and Hepatology 24(9); 1484-1493; 2009 September	HEV(Hepatitis E Virus)の疫学に関する総説で、現在の状況が示されている。流行地域では急性肝炎の大規模なアウトブレイクが起こることがある。急性肝炎の大発生及び散発例は通常遺伝子型1と2のHEVに起因し、主に糞口感染によって引き起こされる。HEV重感染は慢性肝炎に罹患しているヒトの間で起こることがあるが、近年、多くは遺伝子型3または4のHEVに起因する、多くの症例が認められている。これらは、他の合併症をもつ高齢の男性により多く発生し、ブタや野生のイノシシ・シカから、食物經由もしくは他の経路からの人獣共通感染と関連して発症する。また、遺伝子型3HEVによる慢性感染は、こうした地域で免疫抑制者の間で報告されている。
3	E型肝炎	SA Medicine; 11(5); P76-81 (2009 October 1)	「医師からみたズーノシア:飼い主・動物医療従事者の感染予防のために」と題した文献の「12回目:E型肝炎」に関する報告である。E型肝炎にはヒト獣共通感染症としての側面もあるが、宿主域の把握が不十分であり、HEV抗体が検出されながらウイルスの同定に至っていない動物種が多くある。医学分野と獣医学分野との連携が不可欠である。
4	E型肝炎	Plos ONE; 4(12); e8156; 2009 December 7	HEV(Hepatitis E Virus)は人獣共通感染病原体であり、ブタはヒトのHEV感染の主要な保有宿主(reservoir)である。本研究では不明であった中部中国のヒトおよびブタ群におけるHEV感染の状況を、ヒト血清およびブタ糞飼料中について調査した。全てのブタおよびヒトHEV分離株は3つの主要なグループに分類される遺伝子型4に属しているが、異なるサブ遺伝子型に分類され、ヒトとブタ群の異種間伝播は、中国中部においては起こらなかったことが示唆された。
5	E型肝炎	Archives of Virology DOI 10.1007/s00705-010-0726-9	インドではHEV(hepatitis E)は血清陽性率4-20%を示す風土病であり、急性ウイルス肝炎の25%以上がHEVに起因しており、インド北部では1955年以降、HEVのアウトブレイクや散発的な症例が発生している。本研究では、10例の急性ウイルス肝炎および6例の劇症肝不全症例における全16HEV配列の解析を行った結果、インド北部では、HEVのサブタイプ1aおよび1cが優勢であり、1cが劇症化を起こす傾向を示している。
6	E型肝炎	Hepatology Research 39; 1153-1158; 2009	中国北京の養豚場および屠殺処理場における肥育ブタ・ウシ・ヒツジおよび3ヶ月未満のブタおよび作業員から血清試料についてHEV抗体陽性を検査し、3ヶ月未満のブタからは糞試料も収集し、HEV RNA陽性率が検査された。また、16試料からDNA塩基配列解析を行った結果、BJ-1およびBJ-2の2グループに分類され、系統発生的解析からは遺伝子型4dに属した。養豚場および屠殺処理場における作業員は、一般集団に比べHEV感染が生じやすいが、HEV抗体の高発生ブタとの接触が密であるためと考えられた。
7	インフルエンザ	Plos ONE; 4(8); e6662; 2009 August	ブタはトリインフルエンザウイルス(AIVs)のヒト感染における中間宿主と考えられており、ブタにおけるトリH5N2(低病原性)およびブタH1N1インフルエンザウイルスの病原性を比較した研究である。42匹の4週齢ブタに2経路による接種を行った結果、両ウイルスは気道全体に増殖性感染を生じ、肺の上皮細胞が主な標的であった。ブタウイルスと比較して、AIVは気道で低いウイルス価及びより少ない抗原陽性細胞を示し、鼻粘膜の呼吸部分ではAIV陽性細胞のみを示し、ブタウイルスと比較して、AIVの鼻からの排泄の低下と関連した。また、AIVの力価と分布はブタの間で非常に異なり、接種経路に強く影響した。肺損傷と症状はブタウイルスよりAIVの方が軽症であった。本結果は、ブタがAIVの中間宿主であるとする理論を否定はしないが、AIVは、ブタにおいて完全な複製能を確立するために、遺伝的な変化を経る必要があることが示唆された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
8	インフルエンザ	Zoonoses and Public Health 56(6-7); 326-337 2009 August 1	「新規インフルエンザウイルスの発生におけるブタの関与」と題した総説である。インフルエンザAウイルスが鳥類から哺乳類に伝播することがあるが、それは、ヒトへの直接的もしくは間接的な伝播によるヒトパンデミック株の発生につながる可能性がある。ブタはトリおよびヒトインフルエンザウイルスによる感染にも感受性があるため、これらのウイルスと(もしくは)ブタインフルエンザウイルスの間で、遺伝的な再集合が起こりうる。新規インフルエンザウイルスがブタで発生する可能性が「混合容器(mixing vessels)」と識別され、この混合容器理論は、トリ保有宿主(reservoir)からヒトへ伝播可能であるユニークなウイルスによる一つの機序である。ブタは、ヒト感染可能な新規インフルエンザウイルスを産生できるが、現在では、どのウイルスがヒトパンデミックを起こすかについて予測することは困難である。
9	インフルエンザ	獣医学雑誌; 13(1) 71-75; 2009 July 20	「動物のインフルエンザ」と題する、動物、特に家畜(ブタ、ウマ、家禽)に存在するインフルエンザウイルスについての解説である。1豚インフルエンザ2馬インフルエンザ3鳥インフルエンザについて詳細な説明がなされている。
10	インフルエンザ	日本内科学会雑誌; 98(10); 2565-2569 2009 October 10	「変貌するインフルエンザにどう向き合うか:1.新規インフルエンザの動向とその制御」と題するシンポジウムでの発表内容である。swine flu (swine-origin H1N1 influenza)およびavian flu (avian-origin H5N1 influenza)の予後は季節性インフルエンザよりも悪いとされているが、適切な対策によって制御可能な疾患であり、これら新規インフルエンザの動向と制御について述べている。1.swine fluでは 1)日本における動向 2)臨床症状と所見 3)治療 4)予防について、2.avian fluでは発生と感染例や臨床症状などが述べられている。
11	インフルエンザ	Plos ONE; 4(10); e7366; 2009 October	ブタは、トリ-ヒト再集合株をつくり、ヒトパンデミックを引き起こす「混合容器(mixing vessels)」であると推測されている。本研究では、統計的技法を用いて再集合体の現象について解析するために、ブタインフルエンザウイルスにおける集合体を調べている。ブタウイルスの再集合体は、ヒトウイルスで見つかったこれまでの結果は、in vitroおよびin vivo両方で類似し、セグメントをコードしている糖たんぱく質表面が高頻度に再集合している。また、直近の二つのヒトパンデミックに関与する株に再集合したポリマーゼセグメント(PB1)の一つが、しばしば再集合することを見出している。
12	インフルエンザ	Veterinary Microbiology 139(1-2) 132-139 2009	H1N1インフルエンザAウイルス(A/swine/ohio/24366/07)は米国オハイオ州の郡品評会でブタから分離され、感染したブタに接触した26名は呼吸器疾患を伴い、うち2名はCDCにてH1N1であると確定診断がなされた。ブタから分離されたこの株は、品評会で関連のあったヒトからのゲノム配列と100%一致した。本研究では、3つのブタウイルスおよび2つのヒト由来H1N1インフルエンザAウイルスをオハイオ州内の異なる時期に分離した結果、3つのブタウイルスは、ヒト(PB1)、ブタ(HA・NA・NP・MおよびNS)およびトリ(PB2・PA)の系列ウイルスの遺伝子を持つトリプル再集合体であることが示された。評価されたウイルスは短期間(3年)に分離されたが、HAおよびNA遺伝子内に遺伝的なドリフトが見られ、HA1タンパクの受容体結合および抗原部位にも違いがあった。一方、すべてのウイルスは赤血球凝集抑制およびウイルス中和試験において抗原類似性が認められた。
13	インフルエンザ	Plos ONE; 4(11); e7789; 2009 November	HA(hemagglutinin)は、初期免疫を誘導する抗原として、A(H3N2)ウイルスにおける宿主が起こす抗原ドリフトにとって主要な因子である。しかし、どこでどの様にHAの進化が免疫によって影響されるかは、A(H1N1)において不明瞭である。本研究では、1918年以降の何百ものA(H1N1)HA配列を解析することにより、宿主選択が実際にA(H1N1)HAで存在している初めての根拠を示している。
14	インフルエンザ	VIRUS REPORT 6(2) 51-59 2009	新型インフルエンザ(H1N1)ウイルスの出現機構を理解するために、遺伝子再集合ウイルス産生に関わるブタの役割と、世界で流行するブタインフルエンザウイルスの遺伝子多様性についての総説である。
15	インフルエンザ	川崎医学会誌 35(3); 233-241 2009	リバースジェネティクスの手法を用い、新しい遺伝子組み合わせを持つインフルエンザウイルスの生産効率を調べ、遺伝子交雑による新型ウイルスのできやすさについて検討した。インフルエンザウイルスWSN株(H1N1亜型)のHAをH3亜型に入れ換えると、子孫ウイルスの生産効率は約1/10に、HAとNAも入れ換えると約1/100に低下することが見出された。また、HAとNAの入れ換えがウイルス粒子形成に影響を及ぼすことが示唆された。遺伝子交雑による新型ウイルスの出現にはHAおよびNAの入れ換えが必須であるが、生産効率の高いウイルスに変異するまでに、従来のウイルスとの競争に打ち勝つためには何らかの選択圧が必要であることを示唆している。

ID	感染症(PT)	出典	概要
16	インフルエンザ	ProMED-mail 20100302.0689	中国香港大学は定期インフルエンザウイルスサーベイランスでブタインフルエンザウイルスとパンデミックH1N1ウイルスのリアソータントを検出した。当該サーベイランスでの検出は初めてであるが、世界中で同様な検出がされている。また、このリアソータントはヒトでは検出されておらず、現時点では香港の集団には出現している兆候はない。引き続き、養豚場の監視およびブタの健康状態のモニターが続けられる。
17	インフルエンザ	ProMED-mail 20100305.0734	「季節性インフルエンザウイルスのヘマグルチニンとノイラミニダーゼを含む3種再集合体ブタインフルエンザA(H1N1)のヒト感染」についての報告がJournal of Infectious Diseases 2010; 2011に発表された。パンデミックH1N1 2009株とは異なるブタ起源であるインフルエンザA(H1N1)ウイルスの再集合体が患者3例から分離され、この3名はカナダ・Saskatchewanの同じ大規模ブタ作業場で働いていた。ノイラミニダーゼおよびヘマグルチニン遺伝子がヒトH1N1ウイルスから判明し、A/Brisbane/59/2007と密接な関連があった。
18	インフルエンザ	Journal of Clinical Virology 46; 192-195 2009	中国において、2004年に天津(Tianjin)および2006年に広東(Guangdong)省から2つのH1N2ブタインフルエンザウイルスが分離され、8遺伝子断片の分子進化が解析された。その結果、中国のブタには、2つの異なるH1N2の遺伝子型が存在し、A/swine/Guangdong/1/06は恐らく北米のH1N2ブタインフルエンザウイルス由来であり、一方、A/swine/Tianjin/1/04は北米で流行している古典的H1N1ブタおよびH3N2ヒトウイルスの再集合体由来である可能性がある。
19	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 September 18	英国におけるパンデミックインフルエンザA H1N1(2009)ウイルス: 発生日 2009年9月1日、最初の確定日 2009年9月16日、報告日 2009年9月18日、原因 パンデミックH1N1ウイルス(2009)。2009年9月2日にNORTHERN IRELANDでアウトブレイクが発生し、飼育頭数はブタ5,000頭、確定例はブタ4500頭、死亡例5頭であった。
20	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 27	アイスランドにおけるパンデミックインフルエンザA H1N1(2009)ウイルス: 発生日 2009年10月24日、最初の確定日 2009年10月27日、報告日 2009年10月27日、原因 パンデミックH1N1ウイルス(2009)。2009年10月24日にGULLBRINGUでアウトブレイクが発生し、飼育頭数はブタ4,500頭、確定例はブタ10頭、死亡例0頭であった。
21	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 September 29	アイルランドにおけるパンデミック A/H1N1 2009ウイルス: 発生日 2009年9月25日、最初の確定日 2009年9月29日、報告日 2009年9月29日、原因 パンデミックインフルエンザA/H1N1ウイルス。2009年9月25日にアイルランドCORK Kilworthでアウトブレイクが発生し飼育頭数はブタ3,050頭、確定例はブタ40頭、死亡例0頭であった。
22	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 4	イタリアにおけるパンデミックA/H1N1ウイルス: 発生日 2009年11月23日、最初の確定日 2009年11月27日、報告日 2009年12月4日、原因 パンデミックA/H1N1ウイルス。2009年11月23日にLOMBARDIA, MILANOでパンデミックA/H1N1ウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ1,250頭、確定例はブタ375頭、死亡例0頭であった。
23	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 November 26	インドネシアにおけるパンデミックインフルエンザA/H1N1ウイルス: 発生日 2009年8月27日、最初の確定日 2009年9月15日、報告日 2009年11月26日、原因 パンデミックインフルエンザA/H1N1ウイルス。2009年8月27日にKEPULAUAN RIAUでパンデミックA/H1N1ウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ250,000頭、確定例は不明、死亡例0頭であった。
24	新型インフルエンザ(H1N1)	CDCR Weekly 2009; FluWatch (Week35)	カナダPHAC(Public Health Agency of Canada)によるパンデミック(H1N1)ウイルスの監視と疫学調査の週間報告である。2009年8月30-9月5日の週は、全体のインフルエンザ活動の傾向は先週と同様の活動性を示し、ILI診察の割合は一年のこの時期の予想よりわずかに高かった。パンデミック(H1N1)2009のピークは6月の最初の3週間であった。罹患数においてはパンデミック(H1N1)2009の勢いは低く、この週の入院数は11例および死亡2例が報告された。2009年9月5日現在、入院総数は1,445例、285例はICUに入院し、パンデミックが起こって以来死亡総数は74例となった。また、パンデミック(H1N1)2009は全州および準州に広がったが、これまで入院症例の約90%および死亡症例の85%以上は4州(AB, MB, ON, QC)から報告されている。2歳以下の子供、妊娠女性、疾患のある65歳以下の人および先住民は、入院する割合が高くまた重症化するリスクが大きい。

ID	感染症(PT)	出典	概要
25	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 23	韓国におけるパンデミックインフルエンザH1N1: 発生日 2009年12月14日、最初の確定日 2009年12月14日、報告日 2009年12月23日、原因 パンデミックインフルエンザH1N1ウイルス。15のアウトブレイクが2009年14, 16, 18日に発生し、総計で疑い例はブタ23,691頭、確定例はブタ241頭、死亡例は0頭であった。
26	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2010 January 27	セルビアにおけるパンデミックインフルエンザA H1N1(2009): 発生日 2010年1月18日、最初の確定日 2010年1月25日、報告日 2010年1月25日、原因 パンデミックH1N1ウイルス(2009)。2010年1月18日にSRBIJAでパンデミックH1N1ウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ10,830頭、確定例はブタ20頭、死亡例0頭であった。
27	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 17	タイにおけるインフルエンザA/H1N1ウイルス: 発生日 2009年12月4日、最初の確定日 2010年12月14日、報告日 2009年12月14日、原因 インフルエンザA/H1N1ウイルス。2009年12月4日にSARABURIでインフルエンザA/H1N1ウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ680頭、確定例はブタ34頭、死亡例0頭であった。
28	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 November 5	台湾におけるA/H1N1インフルエンザウイルス: 発生日 2009年10月19日、最初の確定日 2009年11月2日、報告日 2009年11月5日、原因 A/H1N1インフルエンザウイルス。2009年10月19日にT'AI-TUNGでA/H1N1インフルエンザウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ3,346頭、確定例はブタ160頭、死亡例0頭であった。
29	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 17	中国におけるインフルエンザA/H1N1ウイルス: 発生日 2009年10月28日、最初の確定日 2009年11月19日、報告日 2009年12月11日、原因 インフルエンザA/H1N1ウイルス。2009年11月25日にBEIJINGでインフルエンザA/H1N1ウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はイヌ52頭、確定例はイヌ2頭、死亡例0頭であった。
30	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2010 January 9	デンマークにおけるパンデミックインフルエンザA/ H1N1ウイルス: 発生日 2010年1月4日、最初の確定日 2010年1月9日、報告日 2010年1月9日、原因 パンデミックインフルエンザA/ H1N1ウイルス。2010年1月4日にEast, RingstedでパンデミックインフルエンザA/ H1N1ウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ3,200頭、確定例はブタ720頭、死亡例0頭であった。
31	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 December 10	ドイツにおけるインフルエンザウイルスA H1N1: 発生日 2009年11月21日、最初の確定日 2009年12月3日、報告日 2009年12月10日、原因 インフルエンザウイルスA H1N1。2009年11月21日にRHEINLAND-PFALZでインフルエンザウイルスA H1N1のアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ425頭、確定例はブタ2頭、死亡例2頭であった。
32	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2010 January 20	日本におけるパンデミックインフルエンザH1N1(2009): 発生日 2010年1月12日、最初の確定日 2010年1月12日、報告日 2010年1月20日、原因 パンデミックインフルエンザH1N1(2009)。2010年1月12日にYAMAGATAでパンデミックインフルエンザH1N1(2009)のアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ2,445頭、確定例はブタ164頭、死亡例0頭であった。
33	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 October 29	ノルウェーにおけるパンデミック A/H1N1 2009ウイルス(追加第3報): 発生日 2009年10月9日、最初の確定日 2009年10月10日、報告日 2009年10月29日、原因 パンデミック A/H1N1 2009ウイルス。2009年10月11-19日にノルウェー-NORD-TRONDELAGの skogn, Trondelag, verdal, Levanger, SelbuおよびFrosta, ROGALANDのTimeおよびHommersak, BUSKERUDのSpikkestadで総計19のアウトブレイクが発生し、総計で疑い例はブタ10068頭、確定例はブタ161頭、死亡例0頭であった。
34	新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 November 30	フィンランドにおけるパンデミックインフルエンザ A/H1N1 2009: 発生日 2009年11月18日、最初の確定日 2009年11月25日、報告日 2009年11月30日、原因 パンデミック A/H1N1 ウイルス。2009年11月18日にアイスランドLANSI-SUOMI Teuvaでアウトブレイクが発生し、疑い例はブタ950頭、確定例はブタ800頭、死亡例0頭であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
35	新型インフルエンザ (H1N1)	OIE 2009 November 3	米国における2009パンデミックA/H1N1インフルエンザウイルス: 発生日 2009年10月22日、最初の確定日 2009年11月1日、報告日 2009年11月3日、原因 2009パンデミックA/H1N1インフルエンザウイルス。2009年10月22日にINDIANAで2009パンデミックA/H1N1インフルエンザウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ3,000頭、確定例は不明、死亡例0頭であった。
36	新型インフルエンザ	OIE 2009 December 10	メキシコにおける2009パンデミックH1N1インフルエンザ: 発生日 2009年4月30日、最初の確定日 2009年5月1日、報告日 2009年12月10日、原因 2009パンデミックH1N1インフルエンザ。2009年4月30日にQUERETARO COLONで2009パンデミックH1N1インフルエンザのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ360頭、確定例はブタ2頭、死亡例0頭であった。
37	新型インフルエンザ (H1N1)	OIE 2009 December 24	ロシアにおけるパンデミックインフルエンザA/H1N12009ウイルス: 発生日 2009年11月10日、最初の確定日 2009年12月3日、報告日 2009年12月23日、原因 パンデミックインフルエンザA/H1N12009ウイルス。2009年11月10日にCHUVASHSKAYA RESPUBLIKAでパンデミックインフルエンザA/H1N12009ウイルスのアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ10,625頭、確定例はブタ45頭、死亡例0頭であった。
38	新型インフルエンザ	モダンメディア 55(6); 153-176 2009年June	「新型インフルエンザの危機対応」と題し、特別講演で発表された総説である。I. 鳥インフルエンザとは (H5N1高病原性鳥インフルエンザ) II. 新型インフルエンザとは (新型インフルエンザ大流行 (パンデミック)) III. 新型インフルエンザ大流行の被害想定 IV. 新型インフルエンザ対策 (事前計画の策定と準備実施) V. 新型H1N1インフルエンザについて詳細な説明が述べられている。
39	新型インフルエンザ (H1N1)	WHO 2010 January 8, 15, 22, 29 February 5, 12, 19, 26 April 1, 9, 16, 23, 30 May 7, 14, 21, 28 June 4, 11, 18, 25	国際保健規則(2005)に批准している加盟国によって、WHOに報告がなされたパンデミック(H1N1) 2009の確定症例数(国別)の週刊報告である。
40	鳥インフルエンザ	ProMED-mail 20100608.1907	中国において、新たに1症例の鳥インフルエンザH5N1ウイルスへの感染が確認された。患者は22歳の妊婦であり、2010年5月23日に発症し、6月3日に死亡し、感染源は病気で死亡した家禽による暴露が示された。中国では39症例が確定され、死亡例は26例である。
41	エボラ出血熱	The PIG SITE 2010 January 13	フィリピンでは2つの州の養豚場でエボラウイルスが検出され、UNおよびWHO(World Health Organisation)の専門家による緊急調査が行われている。
42	手足口病	Journal of Clinical Virology 48; 49-54 2010	2008年秋にフィンランドで手足口病HFMD(foot and mouth disease)のアウトブレイクが起き、成人が罹患したことから非典型的であり、かつ患者の多くは爪甲脱落症を被った。317名のHFMDから420組織を収集・解析を行った結果、212HFMD症例でHEV(human enteroviruses)が検出され、2つのHEV型CV(coxsackieviruses)-A6およびCV-A10がアウトブレイクの原因因子として特定された。
43	口蹄疫	OIE 2010 March 1	中国における口蹄疫: 発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年3月1日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2010年2月22日にGUANGDONGで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数はブタ8,382頭、確定例はブタ1,474頭、死亡例0頭、屠殺8,382頭であった。
44	口蹄疫	ProMED-mail 20100301.0672	2010年2月、ベトナムSon La省の二つの地区で口蹄疫が広がっており、水牛およびウシ235頭、ブタ180頭が感染した。感染地域では感染阻止および撲滅の措置を講じている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
45	口蹄疫	OIE 2010 June 21	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年6月21日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年6月10日にXINJIANGで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ1280頭、確定例ブタ83頭、死亡例0頭、屠殺例1280頭であった。
46	口蹄疫	OIE 2010 May 31	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年5月31日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年5月17日にTIBETで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ701頭、確定例ブタ12頭、死亡例0頭、屠殺例701頭であった。
47	口蹄疫	OIE 2010 May 26	香港における口蹄疫:発生日 2010年2月5日、最初の確定日 2010年2月10日、報告日 2010年5月26日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年2月19日にHONG KONGで2つの口蹄疫アウトブレイクが発生した。それぞれ飼育頭数ブタ928もしくは590頭、確定例ブタ500もしくは590頭、死亡例0もしくは1頭、屠殺例はいずれも0頭であった。
48	口蹄疫	ProMED-mail 20100518.1641	香港における口蹄疫:発生日 2010年2月5日、最初の確定日 2010年2月10日、報告日 2010年5月18日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年2月5日にHONG KONGで口蹄疫アウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ2132頭、確定例ブタ1240頭、死亡例1頭、屠殺例は0頭であった。
49	口蹄疫	OIE 2010 May 18	香港における口蹄疫:発生日 2010年2月5日、最初の確定日 2010年2月10日、報告日 2010年5月18日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年2月5日にHONG KONGで口蹄疫アウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ614頭、確定例ブタ150頭、死亡例0頭、屠殺例は0頭であった。
50	口蹄疫	ProMED-mail 20100504.1445 OIE 2010 May 2	中国における口蹄疫(追跡調査No.9):発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年5月2日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年4月20日にXINJIANGで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ771頭、確定例ブタ771頭、死亡例15頭、屠殺例756頭であった。
51	口蹄疫	ProMED-mail 20100430.1407 OIE 2010 April 30	中国における口蹄疫(追跡調査No.8):発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年4月30日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年4月23日にNingxiaで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ778頭、確定例ブタ152頭、死亡例1頭、屠殺例777頭であった。
52	口蹄疫	OIE 2010 April 12	中国における口蹄疫(追跡調査No.5):発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年4月12日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年4月7日にGANSUで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ヒツジ389頭、ブタ831頭、確定例ヒツジ58頭、ブタ640頭、死亡例いずれも0頭、屠殺例ヒツジ389頭、ブタ831頭であった。
53	口蹄疫	OIE 2010 April 9	中国における口蹄疫(追跡調査No.4):発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年4月8日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年3月28日にJIANGXIで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ3479頭、確定例ブタ223頭、死亡例0頭、屠殺例3479頭であった。
54	口蹄疫	ProMED-mail 20100330.0997	中国における口蹄疫:報告日 2010年3月30日、最初の確定日2010年3月30日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年3月14日にGANSUで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。発病例イノシシ(hog)206頭、死亡例17頭、屠殺例イノシシ(hog)1089頭であった。
55	口蹄疫	ProMED-Mail 20100413.1197	中国における口蹄疫(追跡調査No.5):発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年4月12日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年4月7日にGANSUで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ヒツジ389頭、ブタ831頭、確定例ヒツジ58頭、ブタ640頭、死亡例いずれも0頭、屠殺例ヒツジ389頭、ブタ831頭であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
56	口蹄疫	OIE 2010 March 12	中国における口蹄疫(追跡調査No.1):発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2010年3月12日、原因 口蹄疫ウイルスO型。2010年3月4日にGUANDONGで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ1108頭、確定例ブタ69頭、死亡例0頭、屠殺例1108頭であった。
57	口蹄疫	OIE 2010 April 20	日本における口蹄疫:発生日 2010年4月7日、最初の確定日 2010年4月20日、報告日 2010年4月20日、原因 口蹄疫ウイルス。2010年4月7日に宮崎で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。飼育頭数畜牛16頭、確定例畜牛3頭、死亡例0頭、屠殺例16頭であった。
58	ウイルス感染(ヘンドラウイルス)	ProMED-mail 20100203.0366	ブタが致死性ヘンドラ(Hendra)ウイルスに感受性があり、ブタを介してヒトに伝播する可能性があることをカナダの研究者が報告した。ヘンドラウイルスはオーストラリアでのみ発生し、野生の果実食コウモリによって媒介され、ウマは感染したコウモリの排泄物から感染する。ウマからヒトへの感染は7例あり、うち4例は死亡し、直近の死亡2例はウマの獣医師であった。カナダにおける研究では、ヘンドラウイルスを接種したブタ(2種類)は発熱・衰弱を呈し、接種後2-5日に全頭からウイルスが検出された。また、Queenslandのブタ100頭の群れの血清を検査した結果においては、500検体中にヘンドラウイルスに対する抗体は検出されなかった。
59	ウイルス感染(ノロ・サポウイルス)	Archives of Virology 154(11); 1765-1774; 2009	ブタノロウイルス(NoVs)およびサポウイルス(SaVs)はCaliciviridaeに属し、ヒト感染を起こす人獣共通感染病原体であると考えられている。本研究では、韓国における64養豚場から採取した537ブタ糞試料が検査され、10試料(1.9%)にブタNoVsが、60試料(11.2%)にブタSaVsが検出され、韓国での流行が示された。1頭のブタを調べた結果、両ウイルスの同時感染は認められなかった。韓国で同定されたブタNoVsに関する初めての報告である。
60	ウイルス感染(ブタトルクテノウイルス)	Virology 396(2); 289-297; 2010 January 20	米国のブタを用いた実験において、PTTV(porcine torque teno virus)は豚皮膚炎腎症症候群(porcine dermatitis and nephropathy syndrome)および離乳後多臓器性発育不良症候群(Postweaning Multisystemic Wasting Syndrome:PMWS)の発症に部分的に関与していることが示された。本研究では、バージニア州で1頭のブタからPTTVの4つの全長遺伝子配列を同定し、遺伝子構成、変動の程度および保存されたPPTVのヌクレオチドおよびアミノ酸モチーフの特徴を詳細解析した。1頭のブタにおける、遺伝子型もしくはサブタイプが異なる多重PPTV感染を報告した初めての研究である。
61	ウイルス感染(ヘンドラウイルス)	Vet. Res. (2010) 41:33 DOI:10.1051/vetres/2010005	ブタに人畜共通感染ウイルスであるヘンドラウイルス(HeV)を接種する実験を行った結果、ブタが宿主となることが示された。実験には2種類のブタが用いられ、HeV接種された全頭に発熱・抑制が発現し、接種後5日には呼吸器徴候や7日には神経学的徴候を示すブタもいた。接種後2-5日では全頭の口・鼻・直腸より、接種後3-5日では眼よりHeV M遺伝子がReal-timeRT-PCRにより検出された。ウイルスRNAは、感染初期に主に呼吸器およびリンパ系から組織へと分布し、ウイルス分離によりウイルス感染が確認された。また、病的変化およびウイルス抗体による免疫組織学的染色は、ウイルスの組織分布と一致した。ブタはHeV感染に感受性があり、ヒトへの感染を仲介する宿主となる可能性が示唆される。
62	ウイルス感染(コブウイルス)	Emerging Infectious Diseases 16(4); 696-698; 2010 April	ハンガリーにおいて、2007年に臨床的には健康なブタの糞試料を検査した結果、65%はブタコブウイルス(kobuvirus)陽性であった。2008年11月に、同農場の健康ブタから糞試料および血清を採取し、RNAの検出および完全遺伝子配列を求めた。ウイルスは腸に限定されていると考えられていたが、ウイルスRNAもしくは感染可能なコブウイルスの一部が感染したブタの血清中に存在していることから、ブタコブウイルスは腸内に限定せず、腸管から循環系に移行し、ウイルス血症に至ることが示唆された。本ウイルスは養豚場に広く拡散している可能性がある。
63	BSE	Journal of Comparative Pathology doi:10.1016/j.jcpha.2010.01.015	ME7(マウス馴化)スクレイピープリオンを脳内投与されたマウスのERM(epithelial cell rests of Malassez)におけるPrP ^{Sc} (disease-associated prion protein)の発現について免疫組織化学的に検証した。スクレイピー感染因子は脳と比べて菌組織には少量であることが示唆され、PrP ^{Sc} は脳からERMには菌組織の神経を支配する三叉神経を経由し、脳神経に沿って広がった可能性がある。菌組織は、TSEの水平感染を起こすPrP ^{Sc} 感染源であるかもしれない。

ID	感染症(PT)	出典	概要
64	黄色ブドウ球菌感染	Veterinary Microbiology 139;405-409;2009	2008年10月、中国Sichuan省Shuangliuで9商業用養豚場から塵試料が収集され、MRSA(methicillin-resistant Staphylococcus aureus)の検出を分析し、4農場からの塵試料はMSSA(methicillin-susceptible S. aureus)についても分析した。5/9農場でMRSAが、2/4農場でMSSAが分離され、2農場はいずれも検出されなかった。すべてのMRSAはspa型t899であり、MSSAはspa型t899およびt034であった。また、spa型t899のMRSAを分離した4/9農場ではMLST(multilocus sequence type)ST9を示し、1農場では、ST1376(single locus variant of MLST ST9)であった。t899spa型t899もしくはt034のMSSAを分離した農場では、各々、MLST ST9もしくはST398であった。本研究は、中国の養豚場でMRSAを初めて報告し、また、養豚場でMRSA ST9およびsingle locus variantであるMLST ST9が検出された初めての報告である。
65	黄色ブドウ球菌感染	Emerging Infectious Diseases 15(12); 1998-2000; 2009 December	MRSA(Methicillin-resistant Staphylococcus aureus)は近年、コミュニティにも出現しており、動物での報告数も増加している。オランダでは、ブタの間にMRSA ST398の広域な感染が確認され、その後、他の国や動物種間にこのMRSA系統が報告されている。本研究では、2008年に香港市場で食肉解体されたブタの鼻腔スワブより分離したMRSAの遺伝子型解析を行なった結果、spatype t899に属するST9が100試料中16に検出され、ブタにおいて異なる系統が出現していることを示している。
66	黄色ブドウ球菌感染	Emerging Infectious Diseases DOI: 10.3201/eid1604.091435	ST(sequence type)398のLA(livestock-associated)MRSA(Methicillin-resistant Staphylococcus aureus)の定着率は、カナダのブタおよび養豚場従事者に高いが、一般のヒト集団における検出率は未知である。本研究では、カナダの2都市に住むヒトのMRSA検体3,687株のうち5株がLA-MRSA株であり、うち4株は皮膚および軟部組織感染者由来であった。また、これらすべての株はSCC(staphylococcal cassette chromosome) mecVを含んでおり、この領域の完全DNA配列は新しいサブタイプであるSCCmecVを示した。カナダの一般のヒト集団におけるLA-MRSAの検出率は低いが、LA-MRSA感染の出現は公衆衛生上の問題である。
67	黄色ブドウ球菌感染	AASV News Archive 2010 January 11	2008年3-5月、オランダ南部およびベルギー北部において、家畜農場にいるラットのMRSA検査を行った結果、2/5養豚場および1ブタ・仔ウシ農場においてクマネズミ(black rat)にMRSA ST398が検出された。他の1養豚場では1匹のクマネズミからMRSA ST9が分離された。ラットは養豚場においてMRSAの拡散と維持に関わっている可能性がある。
68	黄色ブドウ球菌感染	Epidemiology and Infection 138; 756-763 doi: 10.1017/S0950268810000245	オランダにおけるブタ屠殺場作業員の鼻腔由来MRSA(Methicillin-resistant Staphylococcus aureus) CC(clonal complex)398の検出率および因子を決定するために、2008年にオランダで3カ所の大規模屠殺場にて調査が行われた。その結果、環境測定用試料のMRSAと各作業場所で働くヒトのMRSA感染の状況は相関($r=0.75$)しており、鼻腔由来MRSAの高い検出率がブタ屠殺場作業員に認められ、生きているブタと作業することが最も重要な危険因子である。
69	ブドウ球菌感染	ProMED-mail 20100313.0821	カナダにおいて、当初ブタにおいて認められたLA-MRSA (methicillin-resistant Staphylococcus aureus)のヒト感染がEmerging Infectious Diseasesに報告された。カナダの2都市に住むヒトのMRSA検体3,687株のうち5株がLA-MRSA株であり、うち4株は皮膚および軟部組織感染者由来であった。カナダの一般のヒト集団におけるLA-MRSAの検出率は低いが、農業従事者や獣医師における検出率は高く、また、宿主動物が広いことから、LA-MRSAを注視する必要がある。
70	レンサ球菌感染	Plos ONE; 4(7); e6072; 2009 July 15	S.suis(streptococcus suis)は人獣共通感染病原体であり、散发例の報告以外に、近年の大きなアウトブレイクとして中国で高い死亡率が報告された。本研究では、欧州のブタから1例および中国とベトナムからヒト2症例の3つのS.suis種の全遺伝子配列を示している。S.suisは系統発生的に他のStreptococcus種とは異なり、約2Mbのゲノムの約40%がユニークである。種における遺伝子の比較では、実質的にすべてのゲノムはs.suisに共通であり、唯一の違いは、2つのヒトからの分離株に存在している3つの約90kb領域である。この領域は、統括的なconjugative elementsとtransposonsを構成しており、薬剤耐性に関連した配列をコードしていることから、水平的遺伝子転移が薬剤耐性の進化に寄与した証拠を提示している。
71	レンサ球菌感染	化学療法の領域 25(11) 119(2327)-126(2334) 2009	ブタレンサ球菌(S.suis)の免疫抗原および病原因子に関して情報不足であり、ワクチン開発を妨げている。本研究では、S.suisに関して1.遺伝子組み換え系の確立 2.菌体表層タンパク質の解析 3.菌株間の多様性を生ずるメカニズムの解析について進められた研究結果が報告されている。

ID	感染症(PT)	出典	概要
72	腸球菌感染	Emerging Infectious Diseases 16(4); 682-684; 2010 April	デンマークにおいて、2001-2002の間、HLGR(high-level gentamicin-resistant) E(Enterococcus).faecalis株が、感染性心内膜炎(IE)に感染した2人の患者およびブタ・豚肉に検出された。HLGR E.faecalis株がIE患者から2株、19頭のブタから19株、豚肉から1株および地域住民から2株分離され、ブタ由来の1株を除き、MLSTタイプST16であったことから、ブタがHLGR E.faecalisのヒト感染における発生源であることが示唆される。
73	コリネバクテリウム	Emerging Infectious Disease 15; 1314-1315 2009 August	ブタと接触のあったヒトにおける重篤なC.ulcerans(Corynebacterium ulcerans)によるジフテリア類似症状の報告である。2007年12月、ドイツで56歳女性農業従事者が1週間に亘る咽頭痛および進行性嚥下障害のため入院し、広範囲の口腔咽頭の偽膜によりジフテリアが疑われ、その白色偽膜の咽頭スワブからは毒素産生性C.ulceransが培養された。発生源を特定するため、患者家族および家畜動物の調査が行われ、家族全員とイヌはC.ulcerans陰性であったが、ブタ19匹中1匹にC.ulcerans毒素産生株の保菌が認められた。ヒトおよびブタ株間のrpoBおよびtox配列は100%相同性を示し、また、リボタイピング解析の結果、ヒトおよびネコに認められるU1リボタイププロファイルと類似していることが示唆された。
74	炭疽	ProMED-mail 20100414.1211	2010年3月29日、中国Dongzhuang村の農場においてブタの死亡が報告され、疫学的調査、臨床症状および病原体の検査の結果、炭疽病と確定された。隔離と必要な措置が執られ、101頭のブタは処分され安全に廃棄された。
75	炭疽	ProMED-mail 20100610.1952	モルドバ共和国Rybnitsa rayonでは、2010年6月7日、ブタに炭疽病確定例が報告され、農場および施設は検疫下にあり、感染防止およびアウトブレイクを制御する手段が講じられている。
76	大腸菌	ProMED-mail 20090923.3347	英国でO157大腸菌のアウトブレイクが発生し、Surrey牧場の動物6種の糞が陽性であった。VLA (Veterinary Laboratories Agency)は102サンプル中33に感染源であるO157種が検出されたと報告した。HPAIによると、Godstone牧場と関連した症例総数は67-68例で小児が感染し、「安定もしくは改善傾向」の状態で入院している。White Post牧場の121サンプル中5にはVTEC (veroytotoxin producing大腸菌) O157が推定され、ウシおよび仔ウシ(公衆との接触はない)、屋内のヒツジおよびヤギに検出された。Godstone農場および姉妹農場も衛生対応が不十分であるため閉場した。White Post農場は2名の来場者に同種の大腸菌が確認された後、閉場した。
77	サルモネラ	AASV News Archive 2010 June 16	新規血清型の多剤耐性サルモネラ菌(Salmonella enterica)が欧州で新興しており、型について調査中であるが、予想以上に蔓延している可能性を警告している。1990年代にDT104として知られているネズミチフス菌(Salmonella Typhimurium)が世界中に流行したが、1990年代中期以前には新規血清型が検出されることはほとんど無かったのに対し、今や急速に欧州に広がっていることから、DT104に似た流行の原因となる可能性が危惧されている。EU全体を通して、特にブタ産業での適切な感染防御対策が必要である。
78	サルモネラ	Journal of Food Protection 23(3); 529-534; 2010	ベルギーでは、2005年夏の間、Salmonella enterica (血清型Ohaio)のヒト感染症例の報告が増加し、11週間(7月1日-9月13日)で60症例の確定例が報告され、全症例は自己限定的な胃腸炎を発症していた。また、ベルギーの食品安全庁(Federal Agency for the Safety of the Food Chain)が行った公式調査において、本血清型の発生増加が観察された。パルスフィールドゲル電気泳動の結果、精肉工場から採取したヒト分離株および流通しているブタ肉からの分離株にクローン関係が確認された。更に疫学調査の結果、ある屠殺処理場が感染に関与しており、当該処理場では、設備の汚染および環境条件の非管理により内臓除去処理中に屠体が混入していた。
79	ブルセラ症	OIE 2009 September 21	スイスにおけるブルセラ症:発生日 2009年9月9日、最初の確定日 2009年9月16日、報告日 2009年9月18日、原因 ブタ流産菌(Brucella suis)。2009年9月9日にGENEVEでブルセラ症のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ52頭、確定例ブタ39頭、死亡例1頭、屠殺例38頭であった。
80	ブルセラ症	OIE 2010 February 9	ドイツにおけるブルセラ症:発生日 2009年12月2日、最初の確定日 2009年12月18日、報告日 2010年2月9日、原因 ブタ流産菌(Brucella suis)。2009年12月2日にBRANDENBURGでブルセラ症のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ38頭、確定例ブタ5頭、死亡例0頭、屠殺例5頭であった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
81	ブルセラ症	OIE 2010 February 9	ドイツにおけるブルセラ症:発生日 2009年12月2日、最初の確定日 2009年12月18日、報告日 2010年2月9日、原因 ブタ流産菌(<i>Brucella suis</i>)。2009年12月2日にBRANDENBURGでブルセラ症のアウトブレイクが発生した。飼育頭数ブタ38頭、確定例ブタ5頭、死亡例0頭、屠殺例5頭であった。
82	細菌感染 (ブタ丹毒)	The PIG SITE 2010 January 14	英国Defra(英国環境・食料・農村地域省)のVLA(獣医学研究所)による10月の調査サーベイランス報告によると、屋外の飼育群におけるrysipelas(ブタ丹毒)のアウトブレイクは、適切な時期にワクチンを接種しなかったことと関連していた。
83	感染	PLoS ONE 5(3); e9782 2010 March	米国において2007年10月、新規多発神経根ニューロパチー(polyradiculoneuropathy)の患者集団が米国のブタ食肉処理場における作業従事者であると特定され、疾病のリスクファクターを検討するための調査(case-control study)が行われた。ブタの頭を処理した症例群とコントロール群に関連があり、圧縮空気を用いて脳を除去していた作業員は、液化した脳やエアロゾル化した水滴に暴露された。8例の追加症例は、この方法を用いている他の2処理場でのみ確認され、この方法を中止した3処理場では、24ヵ月後の追跡調査において新規症例の報告はない。対照群と比較して発症群ではINF γ レベルの中央値が高値であり、神経組織への暴露と関連して起こる免疫介在性疾患と一致している。
84	エキノкокクス	Parasitology International 58 184- 186 2009	ペルーにおける単包中症(cystic echinococcosis)を引き起こす条虫(tapeworm)の遺伝的変異についての調査である。異なる媒介宿主および異なる地域から採集された71の幼虫が、ミトコンドリア内cox1(cytochrome oxidase subunit 1)および核内ef1 α (elongation factor 1 α)遺伝子のDNA配列によって同定された。G7遺伝子型(<i>E.conadensis</i> pig strain)はLima市で飼育されたブタに初めて見つかった。 <i>Echinococcus granulosis sensu stricto</i> (ヒツジ株もしくはG1)はヒト患者、ヒツジおよび畜牛に最も流行し、G6遺伝子型(<i>E.canadensis</i> camel strain)はやぎおよびヒト1例に認められた。